

令和7年第4回生活支援体制整備部会（第1層協議体兼地域ケア推進会議）について

日時：令和8年3月19日（木）午後3時30分から午後5時

場所：市役所7階 大会議室

出席者：福祉部介護保険課 田中副部長 貞松課長 田村課長補佐 橋川事務員
生活支援体制整備部会員（※別添名簿）（内、欠席者1名）

傍聴者：1名

1. 開会

- ① 部会成立確認
- ② 資料確認

2. 報告及び協議事項

(1) 通いの場支援について

①通いの場の支援事業検討の報告（※別紙参照）

本会において、通いの場の支援事業について検討を重ねていただき、令和7・8年度予算での予算化を目指したが、政策提言内容での予算化は叶わなかった。

（情報提供）

地域福祉課の「高齢者生きがいづくり活動事業補助金」（※別紙参照）

②新たな取組の検討（※当日配付資料1）

産業振興課が行うガバメントクラウドファンディングを活用した社会起業家支援事業への参加事業者との連携

- ・川西コミュニティラボ
- ・さかさま不動産
- ・一般社団法人Sasabase

③地域活動の紹介（画像）

- ・「GH地区福祉委員会 男の料理教室」

独居の男性のための料理教室。食材の買い出しから、調理室の後片付けまでを行う。

- ・「久代地区 もうひとつの居場所」

40代の女性ふたりが、会館の植え込みを畑に利用し、多世代が集まる場づくりを行っている。

- ・「明峰地区 青空ふれあい広場」

高齢者・障がい者・引きこもり・子どもなど、幅ひろい交流の場をめざして

いる。公園で行うのは、通行人なども気軽に参加できるため。今回、特別養護老人ホーム湯々館が開催する公園まで送迎を行う。

〈意見〉

- ・いつも同じメンバーになりがち。来られない人、新しい層をどう呼び込むかが課題
- ・他市町の社会福祉協議会で、通いの場へ行けない人の自宅開放型サロンを行う取組みがあった。そういう視点での取組みも必要
- ・北部と南部で課題が異なる。地域ごとのニーズを把握し、空き家活用や人材発掘を地域別に最適化すべき
- ・集団が苦手な男性向けに、個人の趣味（プラモデルや絵画）をベースにしつつ、緩やかに交流できるスペースが必要
- ・交流の場への送迎を事業所が請け負い、地域と連携することは素晴らしいが、リスク管理を行う必要がある。

(2) 報告事項（当日配付資料2）

①福祉と医療の総合情報サイト〈かわにしサポートナビ〉

〈概要〉

令和4年3月から稼働しており、この3月で4年が経過するが、この間にも情報の充実や笑顔ミライちょきんと連携などを進めている。

〈状況について〉

全体の登録件数は、令和8年2月末時点で3,441件。

介護保険サービス	246件
障がい福祉サービス	278件
病院・歯医者・薬局	318件
インフォーマル	2,599件

令和6年度末と比較して、約400件増えており、主に笑顔ミライちょきんの活動の登録が多数を占めております。

〈現在の取り組みについて（更新調査の実施、情報の鮮度）〉

新たに登録したインフォーマルの資源については、「笑顔ミライちょきん」の介護予防ポイントの付与対象活動を含め、生活支援コーディネーターが団体代表者に聞き取りを実施している。

他市から活用方法について問い合わせがあり、活用例として、地域包括支援センターと生活支援コーディネーターが年に1回集まり、互いの情報を共有する「地域アセスメント」も紹介している

<今後について>

笑顔ミライちょきんと連携等活用範囲の拡充もあり、第2層生活支援コーディネーターとさらに連携し、地域情報の拡充に努めていく。

②介護予防・健康ポイント事業「笑顔ミライちょきん」

<概要>

令和7年1月から事業を開始し、1年が経過した。介護予防に資する住民主体の活動へ参加することによりポイントを獲得でき、高齢者の社会参加を促し、介護予防につなげる。

<数値（利用者数など）>

令和8年2月末時点でのユーザー数は5,383人、登録活動数は1,778、また、令和8年2月に介護予防ポイントを1回でも獲得した人は2,756人を超えており、介護予防ポイントの累計付与数も、800万ポイントを超えている。

<現在の取り組みについて（活動団体の登録状況）>

介護予防ポイントを付与できる活動しての登録申請は市への申請が必要だが、申請後に開催日を変更するなど、登録内容の軽微な変更はコールセンターへの電話連絡で完結できるようにしている。

申請の受付は、ここ数か月は一月あたり15団体程度になっている。

ポイント交換期限が3月31日と迫っていることから、ポイント交換会を2月から3月にかけて8回開催する予定としており、本日までで5回実施している。

<今後について>

かわナビと笑顔ミライちょきんの連携について、活動の情報が掲載されていることの周知をさらに強化していく。また、介護予防に資する活動について、第2層生活支援コーディネーターとともにさらに把握を行い、かわナビと笑顔ミライちょきんの周知に努めていく。

③笑顔ミライおうえん団補助事業

<概要>

令和6年度から開始し、令和7年度は外出支援に関する部分の拡充を行い、実施している。

<申請状況について>

補助金の交付方法は、「概算払い」と「確定払い」の2種類があり、活動団体が選択する。令和8年2月末時点では、13団体から概算払いの申請をいただき、そのうち5団体は車両を使った外出支援を行う団体。

<訪問型支えあい活動者交流会について>

令和8年2月27日（金）に、市役所7階大会議室で令和7年度第2回訪問型支えあい活動者交流会を開催し、70名が参加。吉岡会長にもご見学いただき、また県高齢政策課、神崎郡福崎町が視察。

<今後について>

生活支援コーディネーターを中心に訪問型支えあい活動支援事業の周知に取り組み、多くの団体に訪問型支えあい活動に参入いただくこと、また活発に活動が行えるようサポートしていく。また、補助金がなくても自走でき事業運営が行える活動になっていくサポートも今後は必要であると感じている。

④川西市生活支援サポーター養成研修について

特定非営利活動法人さわやか北摂へ委託し行っている。

令和8年2月18日（水）19日（木）11名受講

令和8年3月8日（日）15日（日）10名受講

令和8年3月17日に生活支援サポーター交流会を実施した。

参加者は、7名（うち、今年度受講者4名）

年齢層が、比較的若く今後は、交流会の活性化についてご意見をいただくことになった。

3. その他

令和7年度の最後の総括

副会長：「数年前は地域課題が分かっているけども、どう動けばいいか見えない状況だった。この3年間で介護予防ポイント事業や訪問型支えあい活動支援事業が具体化し、他市から視察が来るレベルまで進展したことは非常に大きな意義がある。」

部会長：「生活支援コーディネーターが中心となり、社会福祉協議会や地域包括支援センター、行政が一体となって動いた結果、ようやく形になってきた。来年度も現場の声、地域の特性を大切に進めていきたい。」

4. 閉会

（次回日程は、調整の上、連絡する。）